

# アーレント 『活動的生』

## 第五章

上村 泰裕 (名古屋大学)

# 第五章 行為

## 24 行為と言論における人格の開示

---

- 人間は言論と行為を通じ、相違を超えて能動的に区別しあう。p218
- 人間は行為し語ることで人格を開示し、世界に登場する。p223
- 言論と行為は、当人をありありと現われさせる。p224
- 人格の相互開示が可能なのは相互共存的に活動するときのみ。p224
- 近代戦では、言論は手段に墮し、行為は無意味となる。p226

# 第五章 行為

## 25 人間事象の関係の網の目と、そこで演じられる物語

---

- 人間は人格を開示するが、ある人が誰であるかは名状しがたい。p228
- 人間相互の交際を困難にすると同時に豊かにする難問の一つ。p229
- 意図の網の目のなかで、行為者は意図せざる物語を産み出す。p232
- 人生も歴史も行為から生じるが、作者が作り出すのではない。p233
- ある人が誰であるかを知るのはその人の伝記を読むときである。p237

# 第五章 行為

## 26 人間事象のもろさ

---

- 行為は孤立ではなく人間関係の網の目のうちで遂行される。p239
- 孤独な権力者こそ強いというイメージは誤り。協力能力が大事。p240
- 行為が命令(制作)と執行(労働)に分岐するのは残念。p242
- 行為には突破の傾向が内在しており、傲慢の誘惑に接している。p243
- 制作が予定通り進むのに対して、行為は予想がつかない。p240

# 第五章 行為

## 27 行為にまつわる難問からのギリシア人の脱出法

---

- 人格は自分には見えない。棺を蓋いて事定まる。佳人薄命。p247
- 行為に付きまとう空しさ。際限のなさと結果の予測のつかなさ。p251
- ポリスの創設。人格開示の機会を提供し、行為を忘却から救う。p253
- ポリスは陸と海を豪胆さの檣舞台とした人々に記念碑を与える。p254
- ポリスとは地理的概念ではなく、住民の組織構造のことである。p256

# 第五章 行為

## 28 現われの空間と、権力という現象

---

- 現われの空間は不安定であり、維持するには権力が必要である。p258
- 権力は人々の相互共存からのみ生じうる。集団を保つ組織。p260
- 暴力は権力を破壊できるだけであり、記念碑も物語も残さない。p262
- 権力が言論の舞台をしつらえ、物語が世界に織り込まれる。p265
- 行為と言論はそれ自体が目的。偉大さの基準で判断された。p268

# 第五章 行為

## 29 制作する人と、現われの空間

---

- 労働社会では公的領域が死滅し、人々は主観性に引きこもる。p272
- 制作は、物世界に居場所を求める限りで相互共存と結ばれる。p273
- 商品市場に集う人々は人格ではなく生産者。自己疎外を経験。p274
- ルネサンス以来の天才崇拝は偉大さの概念の歪められた形態。p274
- 天才は能力の奴隷になることで、自分の作品と競争する羽目に。p276

# 第五章 行為

## 30 労働運動

---

- 労働は世界から見捨てられ必然性に服しており、反政治的。p278
- 労働運動は利害だけでなく民主主義を要求する独創性を示した。p281
- 労働者は政治参加が認められ、政治的に完全に解放されている。p282
- 労働運動は、利害を超えて行為し言論を交わす唯一の集団。p284
- 福祉国家が実現すると、労働運動は圧力団体の一つと化した。p284



# 第五章 行為

## 31 行為に代えて制作を置き、行為を余計なものにしようと試みてきた伝統

---

- 複数性の難問から一者支配に逃げると公的領域が消失する。p286
- プラトンは始める人と行なう人を区分して政治を技術に変えた。p289
- 思考と行為の分離モデルはポリスに家政を持ち込む革命だった。p290
- アイデア論を適用することで理性による非人格的支配を正当化。p295
- 相互共存を目的手段関係で制御すると人間関係の網の目は崩壊。p300

# 第五章 行為

## 32 行為のプロセス性格

---

- 現代の科学者は自然を制作ではなく行為の対象として対話。p301
- 歴史だけでなく自然も予測不能なプロセスとして理解される。p302
- 忘却が責任を隠匿してもプロセスをなかったことにはできない。p304
- 行為は意図せざる結果を生じ、帰結の連鎖をなして持続する。p305
- 新しいことを始める自由はあるが、無制約の主権はない。p308

# 第五章 行為

## 33 為されたことの取り返しのつかなさ、赦しの方

---

- 労働を制作の世界性が癒し、制作を行為と言論の意味が救う。p308
- 取り返しのつかなさは赦しが、予測のつかなさは約束が救う。p310
- 赦しは過去を解き放ち、約束は未来の不確実性を緩和する。p311
- 罪過の帰結からお互いを解放しなければ一歩も進めなくなる。p315
- 人を赦すことで、人格が開示され新たな関係が設立される。p317

# 第五章 行為

## 34 行ないの予測のつかなさ、約束の力

---

- 予測のつかなさは人間の心の不可解性と関係の網の目から。p321
- それは人間が自由であること、孤独ではないことの代償。p321
- 約束は、不確実性の大海に浮かぶ予見可能な島々。p322
- 人々を団結させておく力は契約として沈殿する。p322
- 道徳の指針は人々の相互共存から直接に生じる。p324